



2024年3月期 第2四半期

決算説明資料

2023年11月24日

証券コード:3741

 **株式会社セック**
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

目次

■ 事業分野

■ 第2四半期決算概要

■ 通期業績見通し

■ 重点テーマ

事業分野 (BF)

会社理念「**社会の安全と発展のために**」

社会の安全と発展にかけがえのない
一流のソフトウェア会社となる

セックは、1970年の創業以来、コンピュータシステムの普遍的な設計技術である「リアルタイム技術」を中核とし、成長してまいりました。

この「リアルタイム技術」が必要とされる分野で、「社会の安全と発展」に貢献する分野が、当社の事業分野です。

社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、時代の変化とともに、新しい事業分野が加わっていきました。

これからも、セックの事業分野はますます拡大していきます。



2024年3月期 第2四半期

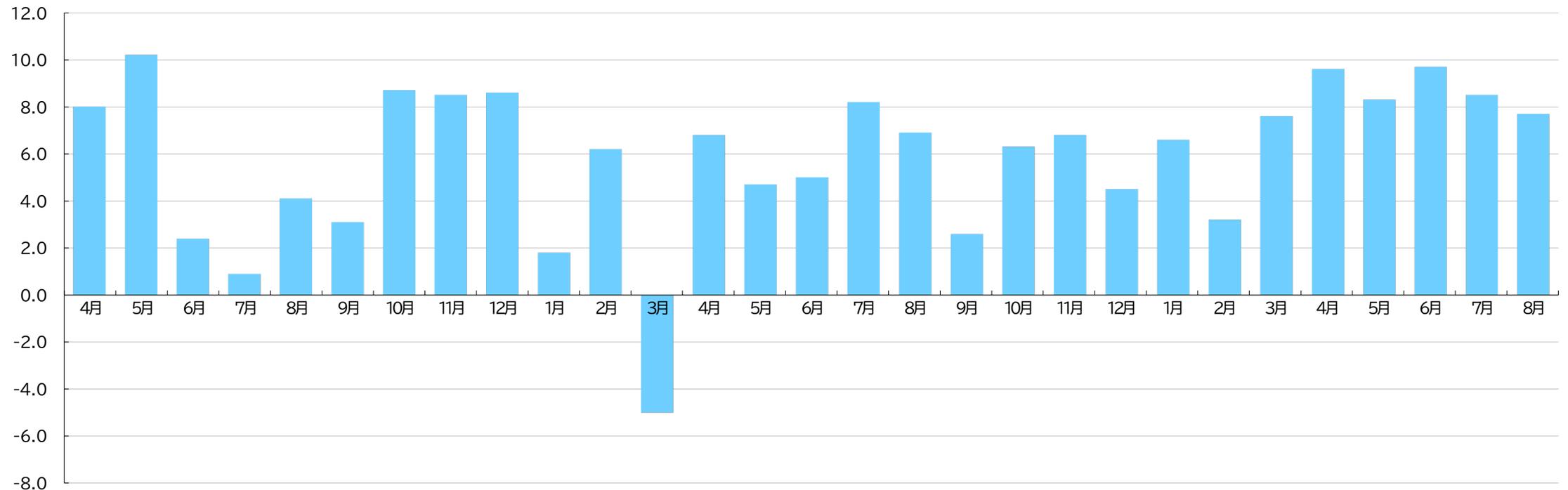
決算概要

事業環境

2024年3月期第2四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)

(単位:%)



2022年4月以降の月別売上高は前年同月比で増加しており、IT需要は全体的には概ね堅調と推察される。

2024年3月期第2四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前年同期比	利益率
売上高	3,915	+16.2%	
営業利益	633	+40.3%	16.2%
経常利益	664	+38.2%	17.0%
当期純利益	463	+37.8%	

受注高、受注残高ともに過去最高

	当期（百万円）	前年同期比
受注高	4,145	+27.0%
受注残高	3,993	+29.1%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

サービスロボット関連やスマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加したことに加え、官公庁向けの開発も引き続き好調であるなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前年同期を上回り過去最高となり、受注残高も過去最高となった。

第2四半期損益計算書

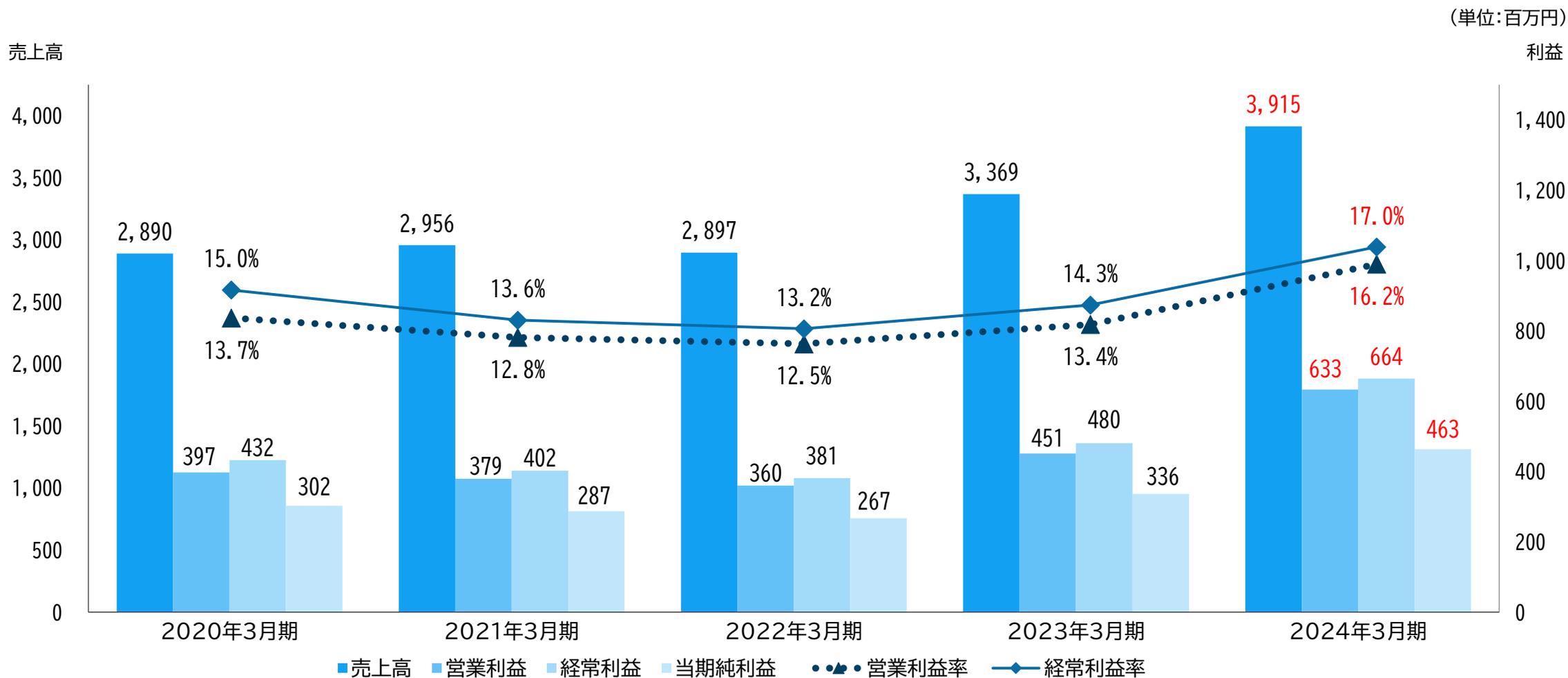
	2023年3月期第2四半期 (百万円)	2024年3月期第2四半期 (百万円)	前年同期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	3,369	3,915	116.2	3,500	111.9
売上原価	2,396	2,751	114.8	2,470	111.4
売上総利益	972	1,163	119.6	1,030	113.0
販売管理費	521	530	101.7	570	93.0
営業利益 (営業利益率)	451 (13.4%)	633 (16.2%)	140.3	460 (13.1%)	137.7
経常利益 (経常利益率)	480 (14.3%)	664 (17.0%)	138.2	490 (14.0%)	135.6
当期純利益	336	463	137.8	340	136.4

売上原価 外注費が大幅に増加（外注費 13.0億円、前年同期比25.8%増／売上高外注比率33.4%、前年同期30.8%）

販売管理費 社員数の増加、ベースアップなどにより労務費が増加、研究開発費は29百万円で、前年同期比で7.8%減

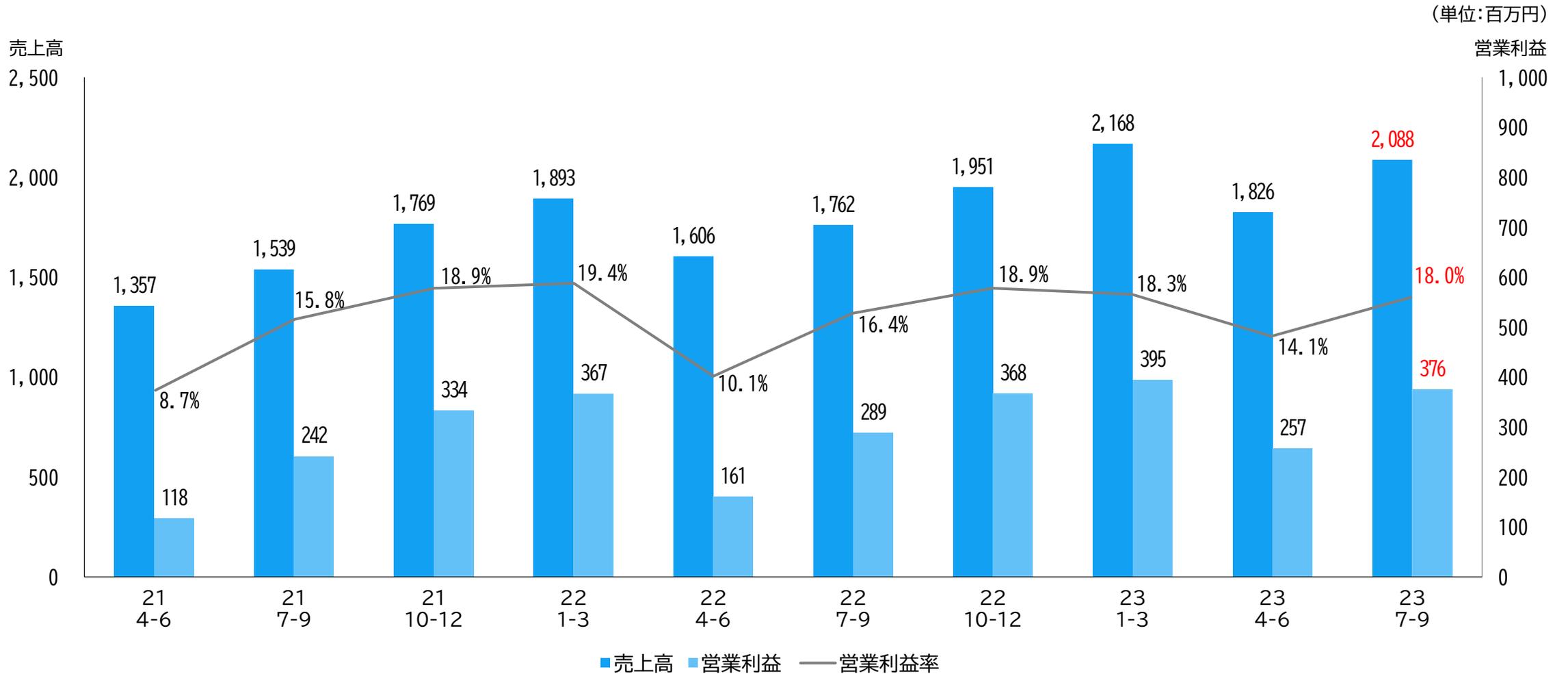
第2四半期決算業績推移(過去5年)

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高



四半期業績推移(PL)

2021年度第3四半期から、8四半期連続の増収増益

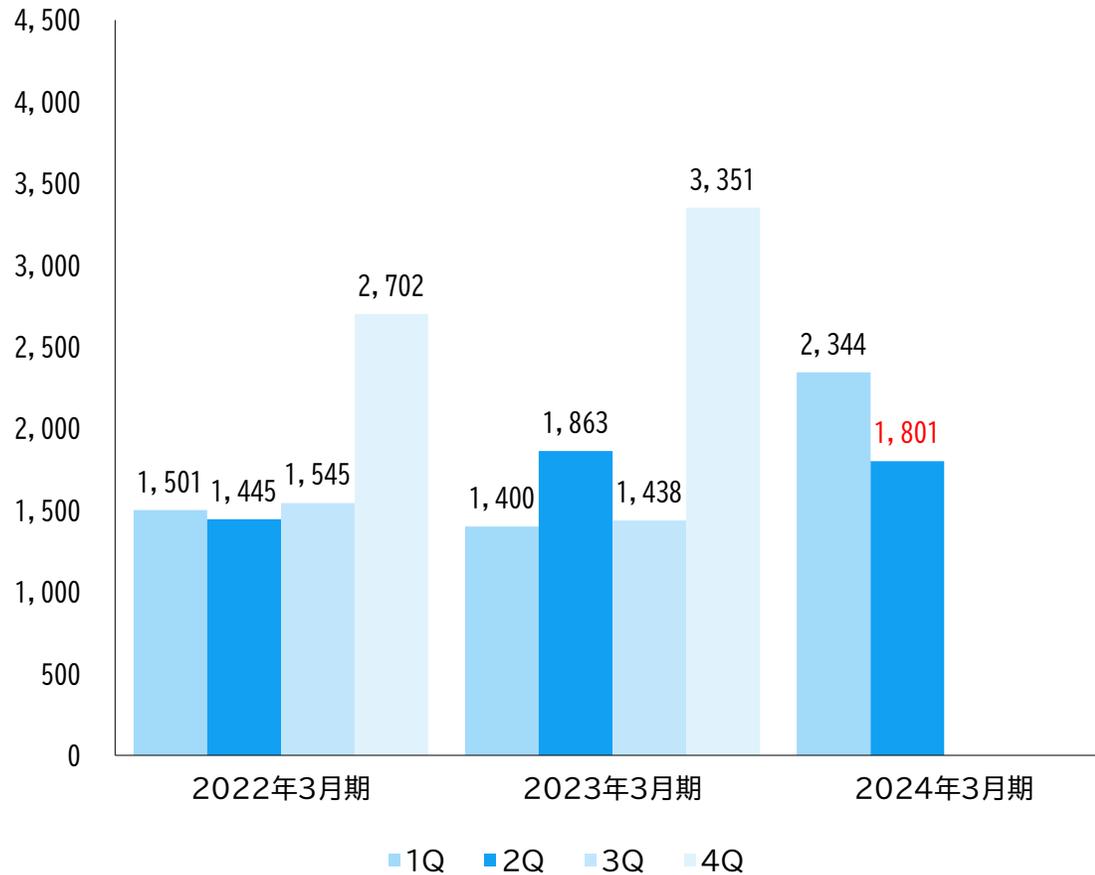


四半期業績推移(受注状況)

受注高は過去3位、受注残高は過去最高

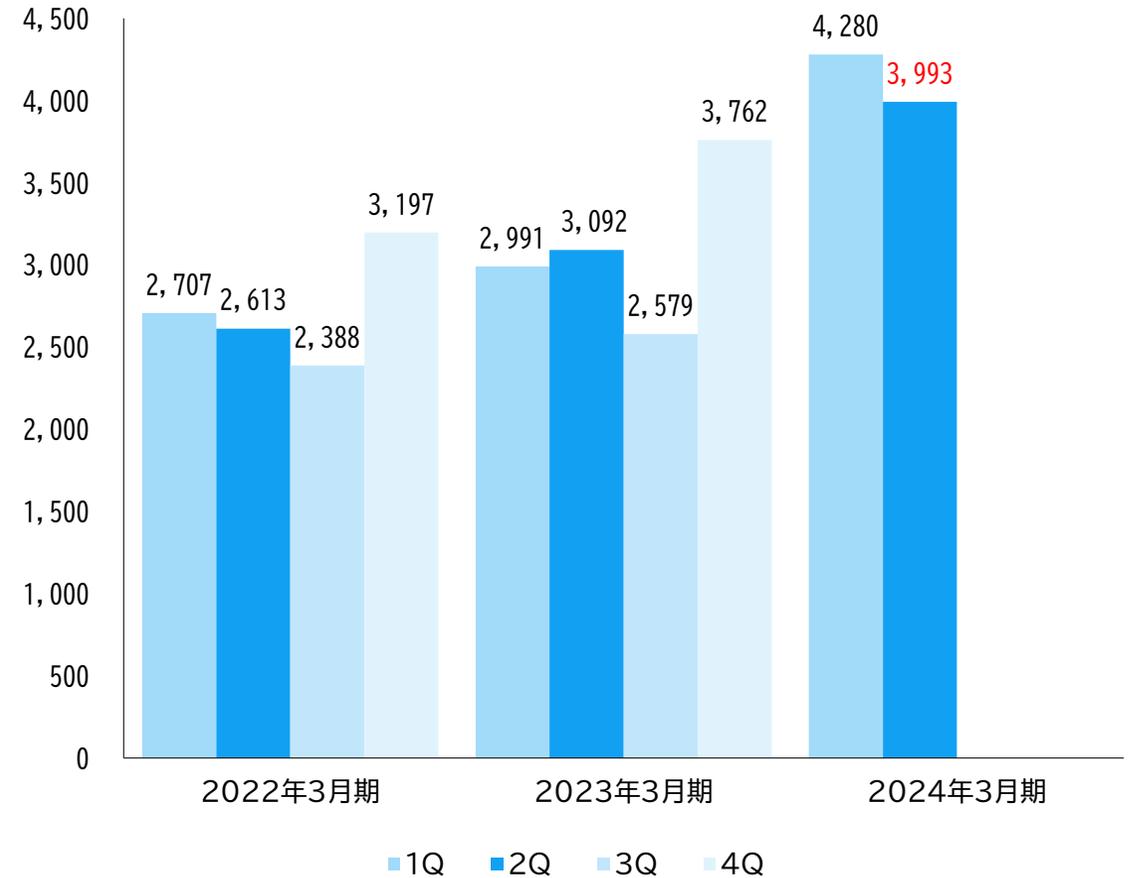
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



第2四半期BF別の状況

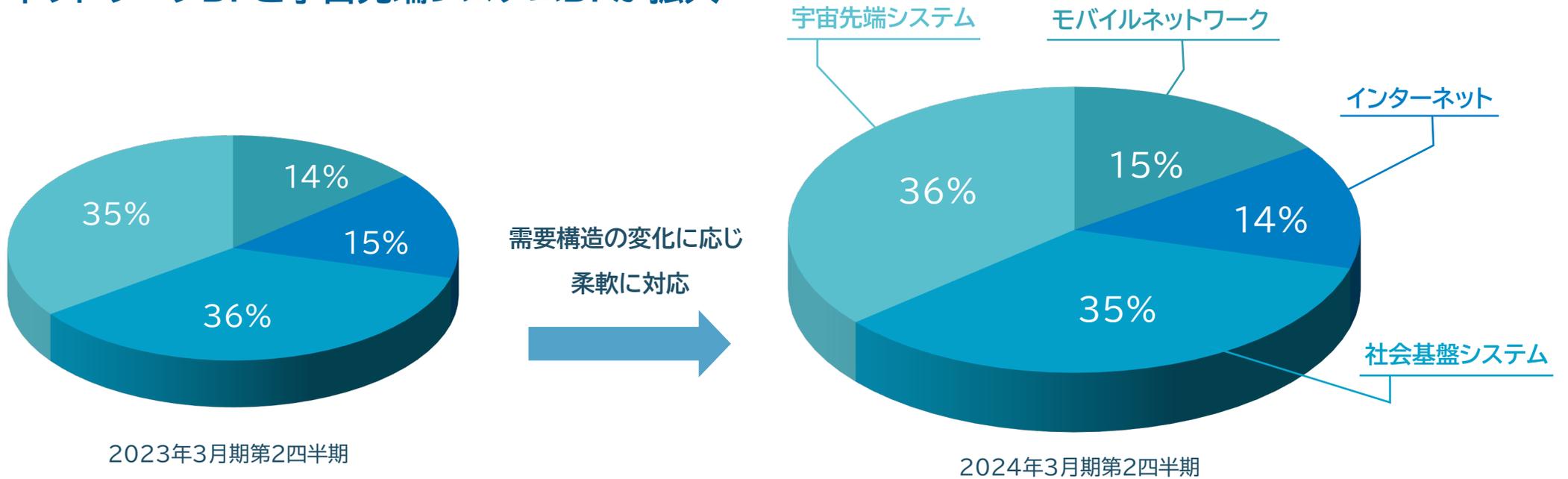
モバイルネットワークBF、宇宙先端システムBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2023年3月期第2四半期		2024年3月期第2四半期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	467	13.9	596	15.2	127.7
インターネット	519	15.4	552	14.1	106.3
社会基盤システム	1,202	35.7	1,349	34.5	112.2
宇宙先端システム	1,179	35.0	1,416	36.2	120.1
合計	3,369	100.0	3,915	100.0	116.2

- モバイルネットワークBFは、スマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加
- インターネットBFは、民間企業向けの開発が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉・健康分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調
- 宇宙先端システムBFは、宇宙関連の開発が堅調であることに加え、サービスロボット関連の開発が大幅に増加

第2四半期BF別売上構成比

モバイルネットワークBFと宇宙先端システムBFが拡大



モバイルネットワークBF ↑

スマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加

インターネットBF ↓

民間企業向けの開発が増加し、BFの売上高は増加したが、全体構成比では減少

社会基盤システムBF ↓

官公庁向けの開発が引き続き好調で、BFの売上高は大幅に増加したが、全体構成比では減少

宇宙先端システムBF ↑

宇宙関連の開発が堅調であることに加え、サービスロボット関連の開発が大幅に増加

第2四半期BF別受注状況

すべてのBFの受注が大幅に増加

ビジネスフィールド	2023年3月期第2四半期		2024年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
モバイルネットワーク	572	350	640	112.0	329	93.9
インターネット	471	242	634	134.5	324	133.9
社会基盤システム	973	1,774	1,345	138.1	2,614	147.3
宇宙先端システム	1,246	723	1,526	122.4	725	100.2
合計	3,263	3,092	4,145	127.0	3,993	129.1

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,971百万円、前年同期(2,463百万円)と比較し20.6%の増加)

- モバイルネットワークBFは、スマートコンストラクション関連の受注が大幅に増加
- インターネットBFは、民間企業向けの大型の開発やモバイル決済端末の開発の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉・健康分野をはじめとした官公庁向けの受注が増加
- 宇宙先端システムBFは、サービスロボットや宇宙関連の受注が増加

第2四半期末貸借対照表

	2023年3月末日(百万円)	2023年9月末日(百万円)	増減(百万円)
流動資産	7,043	6,899	▲144
固定資産	2,141	2,234	92
流動負債	1,391	1,230	▲161
固定負債	190	175	▲14
純資産	7,602	7,727	124
総資産	9,185	9,133	▲51
自己資本比率	82.8%	84.6%	1.8%
流動比率	506.1%	560.6%	54.5%
固定比率	28.2%	28.9%	0.7%

流動資産 現金及び預金の増加、売上債権の減少などによる減少

固定資産 投資有価証券の取得などによる増加

流動負債 未払法人税等の減少などによる減少

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

	2023年3月期第2四半期 (百万円)	2024年3月期第2四半期 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,032	1,154	122
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲94	▲104	▲9
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲380	▲351	28
現金及び同等物の増減額	557	699	141
現金及び同等物期末残高	3,792	3,775	▲17

営業キャッシュ・フロー 売上債権の減少、税引前四半期純利益の増加などによる収入増

投資キャッシュ・フロー 投資有価証券の償還があったが、取得もあり支出増

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額は増加したが、自己株式の取得による支出が大幅に減少したことなどによる支出減

2024年3月期

通期業績見通し

2024年3月期業績見通し

売上高、利益面ともに計画を上回る見込みであるため、11月9日に業績見通しを上方修正

	2023年3月期実績(百万円)	2024年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	7,488	8,150	108.8
売上原価	5,246	5,720	109.0
売上総利益	2,241	2,430	108.4
販売管理費	1,026	1,030	100.4
営業利益 (営業利益率)	1,215 (16.2%)	1,400 (17.2%)	115.2
経常利益 (経常利益率)	1,278 (17.1%)	1,460 (17.9%)	114.2
当期純利益	878	1,010	114.9

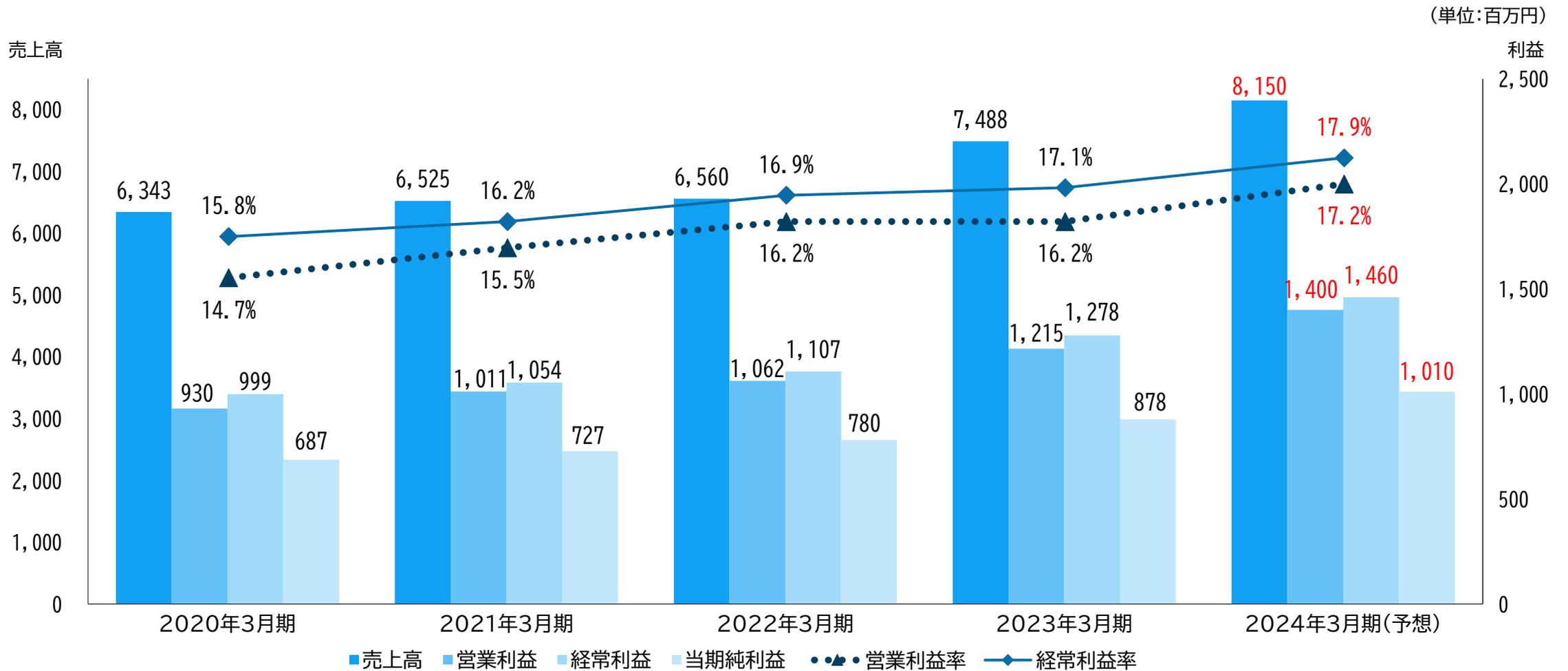
今期の業績達成、次年度に向けた課題対応として以下に取り組みます。

- 「モバイルネットワークBF」のお取引先の事業再編や組織変更への対応
- 「インターネットBF」及び「社会基盤システムBF」の生成AI組み込みへの対応
- 「宇宙先端システムBF」の大型プロジェクトの組み替えへの対応

これらを下期に重点的に対応することで、今期の業績達成と次年度の増収増益を目指します。

通期業績の推移

7期連続の増収増益を目指す



2024年3月期BF別業績見通し

宇宙先端システムBF、インターネットBFが想定を上回る展開で、すべてのBFで増加する見込み

ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	XR(クロスリアリティ)関連の開発やスマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調で、増加	➡	スマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加し、ほぼ想定どおりの展開	➡
インターネット	非接触ICを利用した開発は継続するが、他のBFとの人員配分の最適化により、減少	➡	民間企業向けの開発が増加しているが、需要の変動が予想されるため、現時点では微増を見込む	➡
社会基盤 システム	環境分野を中心とした官公庁向けの開発が引き続き堅調で、増加	➡	環境分野を中心とした官公庁系の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
宇宙先端 システム	宇宙関連の開発は堅調だが、サービスロボット関連の大型開発案件の計画変動が予想されるため、微増	➡	サービスロボットや宇宙関連の開発案件が堅調に推移し、想定を若干上回る展開	➡

2024年3月期

重点テーマ

先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国、企業の研究機関、ハードウェアベンダとの最先端技術でのアライアンスを積極的に推進します。
2. 生成系AI関連の研究を進めるとともに、AIの活用に伴うリスクへの対策としてAIガバナンスに関する研究を開始します。

「高付加価値化」

1. 情報科学、統計などのアプローチから有益な知見やビジネス上の便益を見出すことで、さまざまなビジネス変革の可能性を提案します。
2. 技術だけではなく、その土台となるドメイン知識やビジネススキルを身に着け、お客様の懐に深く入り込み、お客様ビジネスに貢献します。

「人的資本投資」

1. AI、デザイン思考、セキュリティ、クラウドを中心に技術教育を強化します。
2. ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化します。

研究開発：生成AI

生成AI関連の研究を進めるとともに、AIの活用に伴うリスクへの対策としてAIガバナンスに関する研究を行っています。ソフトウェア開発及び最先端技術を窮めるプロフェッショナルとして、また生産性向上、開発要員の精神的負担軽減などの観点から、生成AI技術に正しく向き合い、有効活用し、目の前に迫っている新しいシステム開発スタイルに備え、変化を先導するポジションを確保していきます。

社内ルールの制定

生成AI関連サービスの急速な普及を鑑み、利用ガイドラインの制定に先駆けて、2023年4月にChatGPT等のサービス利用の注意事項を周知しました。利用ガイドラインは、一般社団法人日本ディープラーニング協会(JDLA)が公表している『生成AIの利用ガイドライン』をベースにして、各種サービスを分類・調査の上、リスクを十分に認識した上で活用する方針の下に2023年10月に制定しました。当社はこのガイドラインを遵守して生成AIサービスを利用することとしています。

特命チームを発足

全社体制で生成AI技術の開発への組み込みを推進するため、2023年11月に社長直轄の専属チームとして「生成AI推進プロジェクト」を発足しました。当社のイノベーションを推進しているイノベーション推進委員会や各関係部門と連携し、世の中の生成AIに関する動向や技術情報、国の施策・法整備状況を収集して、利用ガイドラインの見直しや社内環境整備、開発プロジェクトへの適用などを主導していきます。

社内ハッカソンを開催

イノベーション推進委員会の主催で、生成AIを活用したアイデア・アプリ・サービスを提案する社内コンテストを開催しました。38チーム68名が参加し、決勝大会では社員121名による審査が行われるなど大規模なイベントとなり、数多くの提案がなされました。イベント後もイノベーション推進委員会がフォローし、事業化の検討など、提案されたアイデアや成果を今後活かす活動を継続しています。



研究開発:エッジコンピューティング

エッジAIチップの開発

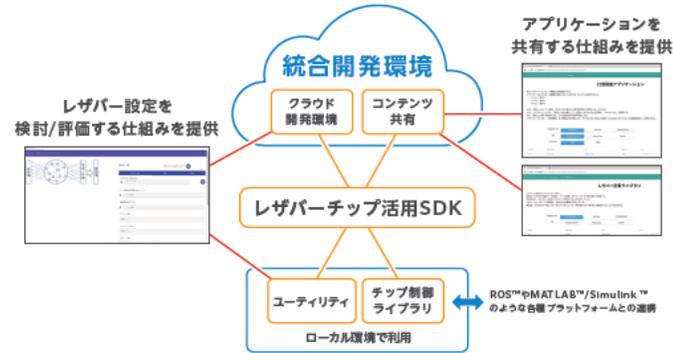
「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発」(NEDO公募事業)

2022年4月にスタートした本プロジェクトでは、人の脳の仕組みを数式化した機械学習アルゴリズムのひとつであるレザバー計算モデルを実行する集積回路チップ(エッジAIチップ)を開発し、AIを搭載したエッジデバイスとしてロボットやIoT分野に応用し、実用化を目指しています。

レザバーチップ活用SDKを開発

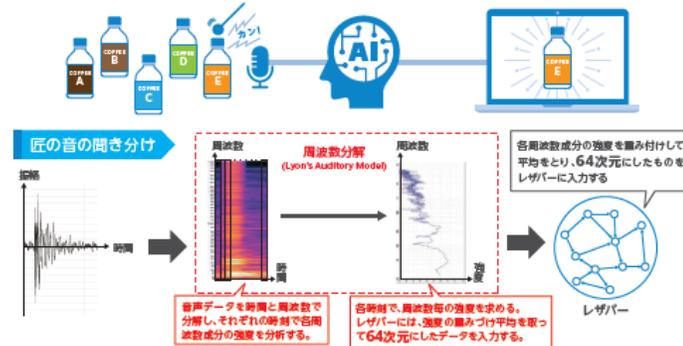
レザバーチップを利用したアプリケーションを開発するための様々なツールを開発しました。

- クラウド開発環境
- コンテンツ共有機能
- ユーティリティ
- チップ制御ライブラリ



事例:打音検査への適用例

各打音をエッジAIで学習することで、どの打音かを識別することができます。学習データが少量で済み、学習時間も数分で完了するため、現場でデータ収集・学習を行うことができます。



当社フェローの長瀬が九州工業大学の特命教授に任命

本プロジェクトでは、研究開発成果であるエッジAIチップをエッジデバイスとしてロボットやIoT分野へ適用することを目指しており、実用化にあたっては産学官の連携が求められます。このような背景から、研究成果の実用化・事業化検討及び検討に関わる営業活動を、当社フェローの長瀬が九州工業大学の特命教授として進めてまいります。



株式会社セック フェロー
長瀬 雅之

2023年11月6日 当社ニュースリリース:
<https://www.sec.co.jp/ja/news/news-393254498177588510.html>

研究開発:「人」と「サイバー・フィジカル空間」の融合

住宅・ビル等の人協調ロボティクスの社会実装技術開発

「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期/人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備」(NEDO公募事業)

NEDOの公募事業に、川崎重工業株式会社などと共同で提案・応募し、委託先として採択されました。

本プロジェクトでは、HCPS(Human-Cyber-Physical Space)融合人協調ロボティクスの基盤技術を活用し、人々が日常多くの時間を過ごしている住宅やビル(集合住宅、オフィスビル等)、商業施設、病院等を対象としたHCPS融合人協調ロボティクスの社会実装に取り組みます。HCPS融合人協調ロボティクスの導入促進ツールの整備やロボットフレンドリーな環境の構築を推進し、労働人口減少対策、高齢者・障がい者の生活の質向上、子育て世代の可処分時間の延伸などへの貢献を目指します。

デジタルツインや生成AIを活用したサービスロボットの実装技術を開発し、集合住宅やオフィスビル、商業施設、病院などの人が集まる空間で、配送や案内、警備、清掃などのロボットサービスの実装・評価を行い、実用化・事業化を目指します。

研究テーマ 住宅・ビル等の人協調ロボティクスの社会実装技術開発

体制

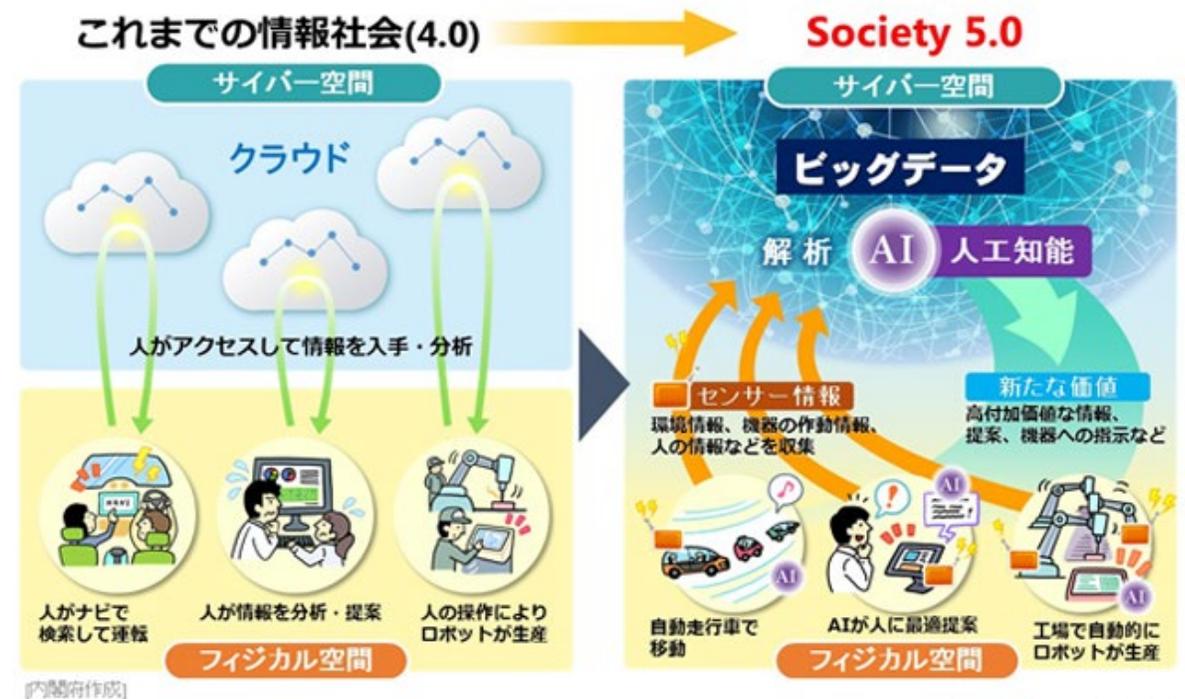
研究代表者: 株式会社セック

共同提案者: 川崎重工業株式会社

国立研究開発法人産業技術総合研究所

名城大学

株式会社キビテク



出展:内閣府資料

2023年11月2日 当社ニュースリリース: https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20231101577629/pdfFile.pdf

ニューストピックス

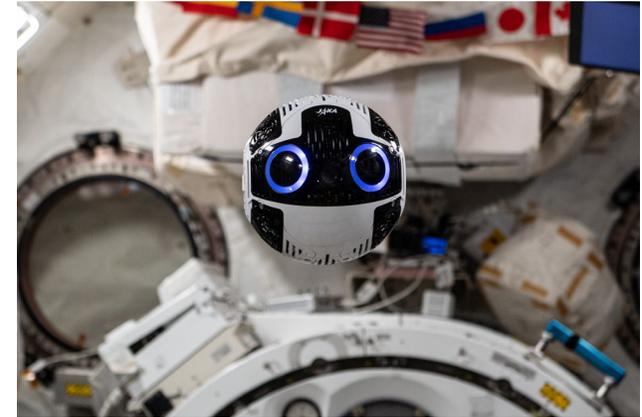
国際宇宙ステーション船内ドローン「Int-Ball2」のシステム統合ソフトウェアおよび地上運用支援システムを開発

国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」自律移動型船内カメラInt-Ballの後継機、Int-Ball2の開発に協力しました。

Int-Ball2は、国際宇宙ステーションで活動する宇宙飛行士を支援する船内ドローンで、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)が開発を進めてきました。

2023年6月6日未明に国際宇宙ステーションに向けて打ち上げられ、日本実験棟「きぼう」内で航法性能や誘導制御など順次動作確認が実施されています。

当社は、JAXAからの委託を受け、Int-Ball2に内包されている各種ソフトウェアを統括するシステム統合ソフトウェア、軌道上のInt-Ball2から受信した遠隔監視データを可視化し、Int-Ball2を遠隔操作する地上運用支援システムの開発を担当しました。また、Int-Ball2のメイン機能である撮影機能も当社が開発を担当し、軌道上で撮影された動画の地上でのストリーミングを実現しています。



「きぼう」船内を航行するInt-Ball2
(画像提供: JAXA/NASA)



Int-Ball2を遠隔操作する地上運用支援システム

2023年6月20日 当社ニュースリリース :

https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20230620507022/pdfFile.pdf

ニューストピックス

「SLIM」搭載の変形型月面ロボットのソフトウェア、「XRISM」向け観測データベースシステムの開発に協力

小型月着陸実証機「SLIM(スリム)」に搭載されている変形型月面ロボットLEV-2(愛称:SORA-Q)のソフトウェア、およびX線分光撮像衛星「XRISM(クリズム)」向けの観測データベースシステム(ODB:Observation DataBase)の開発に協力しました。
SLIMおよびXRISMは、H-IIAロケット47号機に搭載され、2023年9月7日に種子島宇宙センターから打ち上げられました。

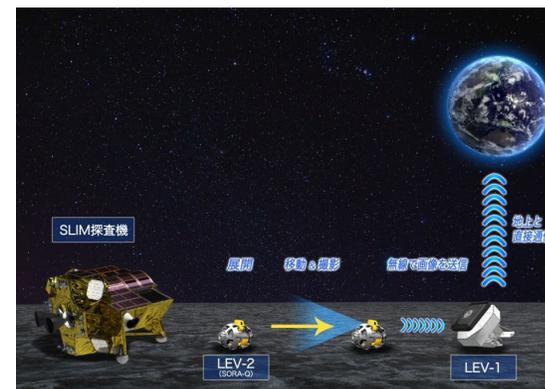
SORA-Qは月面低重力環境下における超小型ロボットの探査技術の実証を目的とし、JAXAの宇宙探査イノベーションハブとして初めて月面での実証を行うものです。
SORA-Qは、SLIMの月着陸直前にもう一台のロボットLEV-1とともに放出されます。その後、月面を移動しながら、搭載されたカメラを利用して写真を撮影するとともに、走行時のデータを取得します。さらに、LEV-1を経由して写真や走行データを地球へと送信します。当社は、これら一連の動作を状況判断しながら自律的に行うソフトウェアの一部を開発しました。

ODBはXRISMの科学運用を支える重要な地上システムの一つで、XRISMで天体を観測する際に、研究者からの観測の要求、XRISMの観測の計画、観測した結果などを含む一連の天体観測の状況を管理する役割を担います。

2023年9月7日 当社ニュースリリース：
https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20230906551622/pdfFile.pdf



変形型月面ロボット「SORA-Q(ソラキュー)」
クレジット JAXA/タカラトミー/ソニーグループ(株)/同志社大学



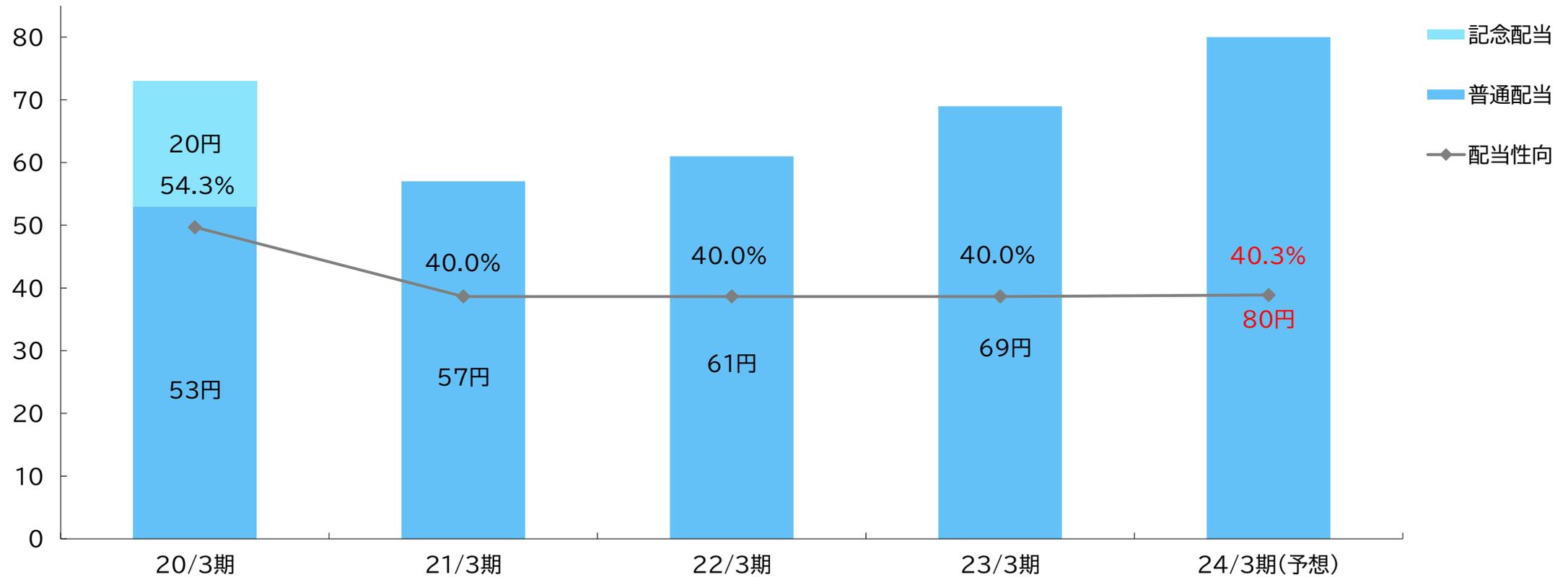
SORA-Qのミッション
クレジット JAXA/タカラトミー/ソニーグループ(株)/同志社大学

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2024年3月期は、業績見通しの上方修正に伴い、配当予想を期初予想の1株当たり71円から80円に修正。

(単位:円)



ご参考: ニュースリリース一覧(2023年6月~2023年11月)

2023年			
6月12日	<u>フロンティアビジネス研究会 公開シンポジウム「宇宙開発の未来共創2023 民間主導の月経済圏の実現に向けて」に登壇</u>	9月20日	<u>日経クロステックNEXT 東京 2023 にてKDDIが展示する「映像×VRソリューション」に技術協力</u>
6月13日	<u>「AWSセレクトティアサービスパートナー」および「AWS公共部門パートナー(PSP)」に認定</u>	9月23日	ラジオNIKKEI & プロネクサス共催「企業IR & 個人投資家応援イベント」にて企業IRセミナーを開催
6月20日	<u>国際宇宙ステーション船内ドローン「Int-Ball2」のシステム統合ソフトウェアおよび地上運用支援システムを開発</u>	10月 3日	機能安全対応RTミドルウェア「RTMSafety」について機能安全の国際規格IEC 61508の認証を更新
6月30日	東京都教育委員会・東京スポーツ文化館主催 中高生向けAIプログラミング講座に協力	10月 5日	<u>ヒューマンリソシアの「リスクリングを通じたキャリアアップ支援事業」に協力</u>
7月14日	大成建設の「設備スリープ検査のICT化アプリ」の開発に協力	11月 2日	<u>「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期／人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備」の委託先に採択</u>
8月21日	<u>「2023年度 第2期 世田谷ITカレッジ」を開講</u>	11月 6日	EdgeTech+ 2023に出展
9月 1日	群馬県主催「IoT・AI活用人材育成講座」を実施	11月 6日	<u>当社フェローの長瀬雅之が九州工業大学の特命教授に任命</u>
9月 7日	<u>小型月着陸実証機「SLIM」搭載の変形型月面ロボットのソフトウェアおよびX線分光撮像衛星「XRISM」向け観測データベースシステムの開発に協力</u>		
9月11日	<u>2023年度日本建築学会大会[近畿]の学術講演会にて自律移動設備測定システムについて講演発表を実施</u>		

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おさください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。